

2. 伊那市の現況と課題

2.1 伊那市の現況

1) 位置・地勢

本市は、長野県の南東部に位置し、南東側は山梨県と静岡県、西側は木曾地域に接する、人口約6万8千人の内陸都市です。市域の東に南アルプス、西に中央アルプスを有し、市内を北から南へ流れる天竜川、東から西へ流れる三峰川沿いに都市が形成されています。

広さは東西37.2km、南北44.7kmで、県内の市町村で3番目に広い667.93km²の行政区域を有しています。

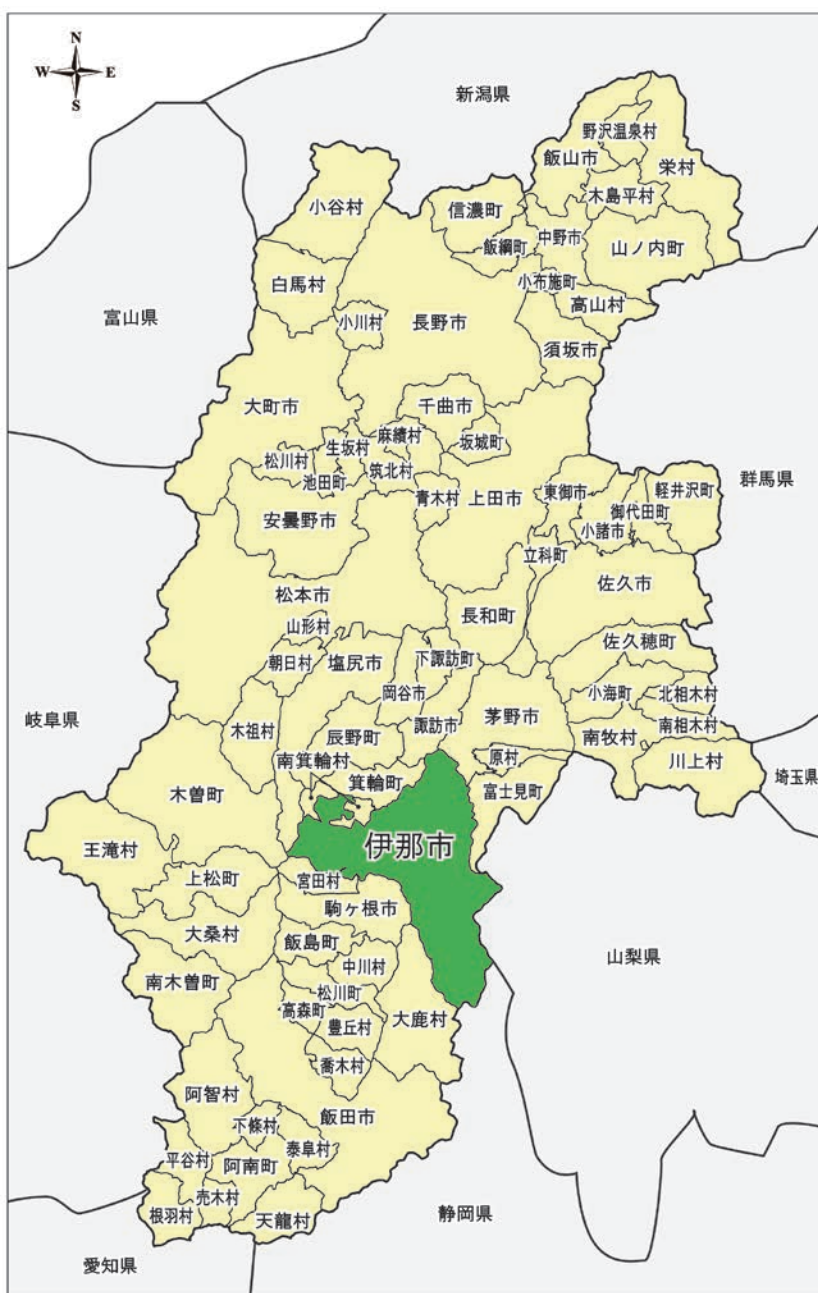


図 伊那市の位置

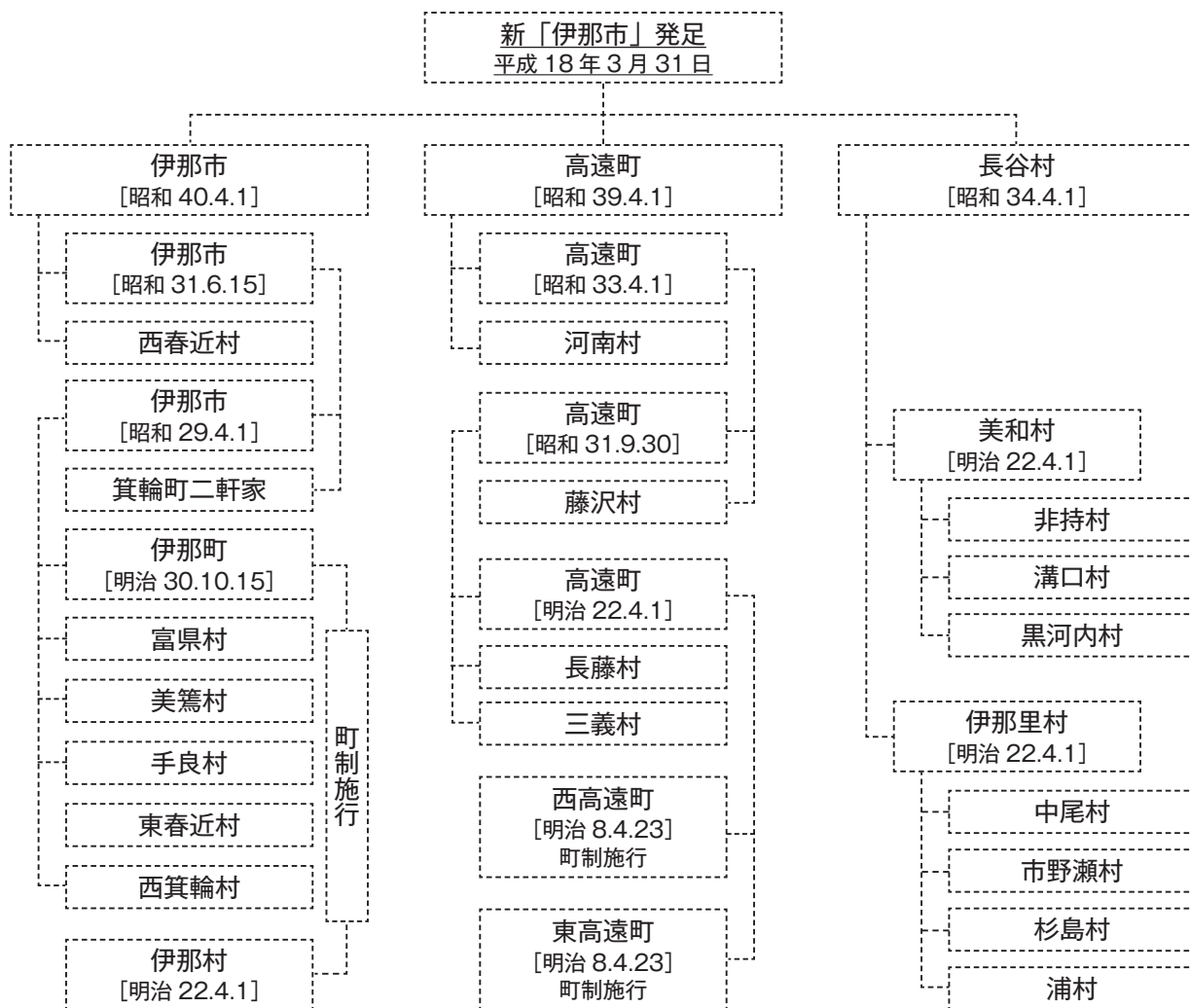
2) 沿革

縄文時代及び弥生時代の住居址である御殿場遺跡、鳥井田遺跡など多くの遺跡や遺物が、天竜川や三峰川の河岸段丘*上の台地に残っています。また、飛鳥～平安時代には東山道がこの地を通り、交通、交易が盛んであったとされ、麻布や鹿など朝廷への献上品もみられます。

中世には山麓や段丘の突端に、伊那の地侍が城館や砦を築いていましたが、天文14年(1545年)武田信玄の支配下となり、更に天正10年(1582年)には織田信長軍によって高遠城は落城し、やがて江戸時代になると高遠藩が成立しました。江戸時代には、天竜川右岸を通る伊那街道に伊那部宿が設置され、木曾方面最寄りの宿場町として庶民の往来で賑わいました。また、天竜川・三峰川沿いの新田開発や天竜川を利用した水運が行われました。

その後明治維新を迎え、明治8年(1875年)に高遠藩は西高遠町・東高遠町となり、同12年(1879年)に郡役所が当時の伊那村に設置されると、上伊那の政治・経済・産業などの中心は順次高遠から伊那に移り、以降現代まで上伊那の中心都市として発展を遂げています。

平成18年(2006年)3月には、旧宿場があり商工業の盛んな伊那市、旧城下で史跡とタカトオコヒガンザクラの高遠町、南アルプスの自然と多くの民話伝承の長谷村が合併し、現在の伊那市となりました。



参考：伊那市統計書令和2年版

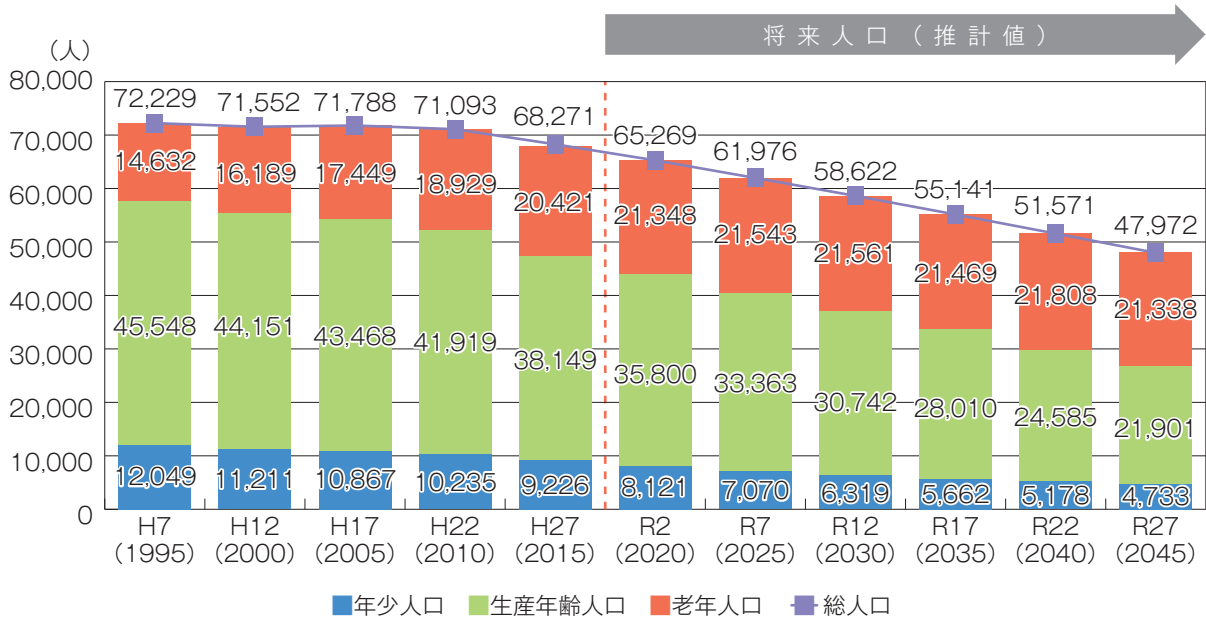
図 明治以降の合併の経緯

3) 人口

①人口の推移

本市の人口は平成22年（2010年）まで約7万人でしたが、平成27年（2015年）に68,271人となり、今後は人口減少が進むと予測されています。

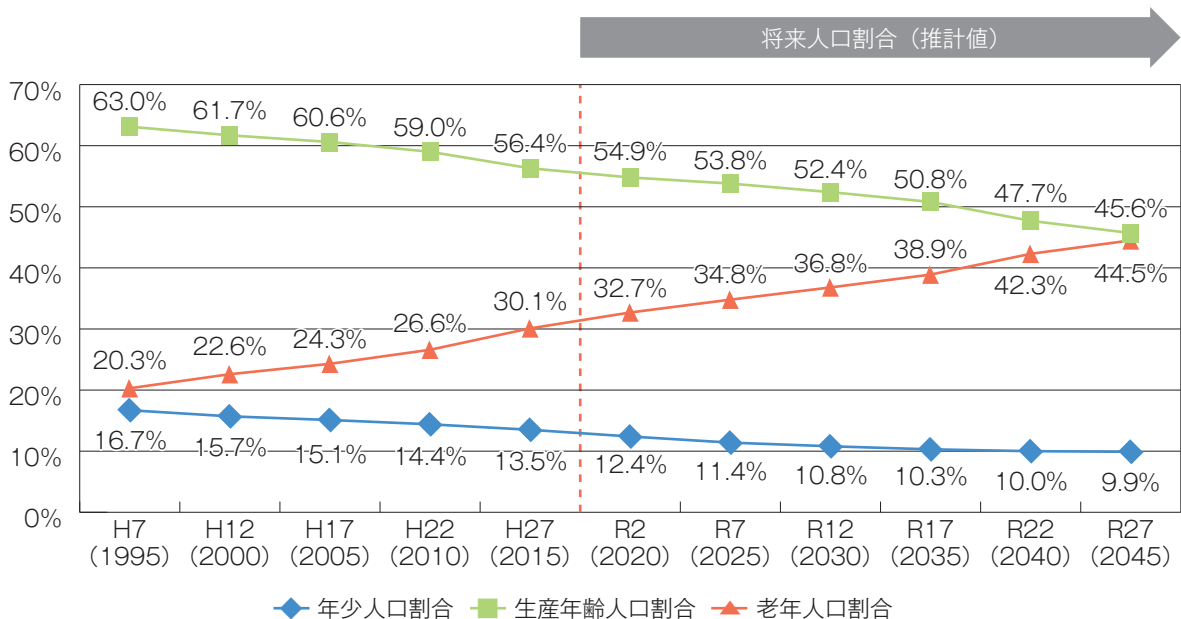
平成27年（2015年）までの年齢3区分別人口の推移をみると、年少人口（15歳未満）及び生産年齢人口（15歳以上64歳未満）の減少が続いている一方で、老年人口（65歳以上人口）は増加し続けています。今後も少子高齢化が続き、令和27年（2045年）には年少人口が4,733人（9.9%）、生産年齢人口が21,901人（45.6%）、老年人口が21,338人（44.5%）となることが予測されています。



※ 総人口に年齢不詳を含む。

資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

図 年齢3区分別人口の推移と推計



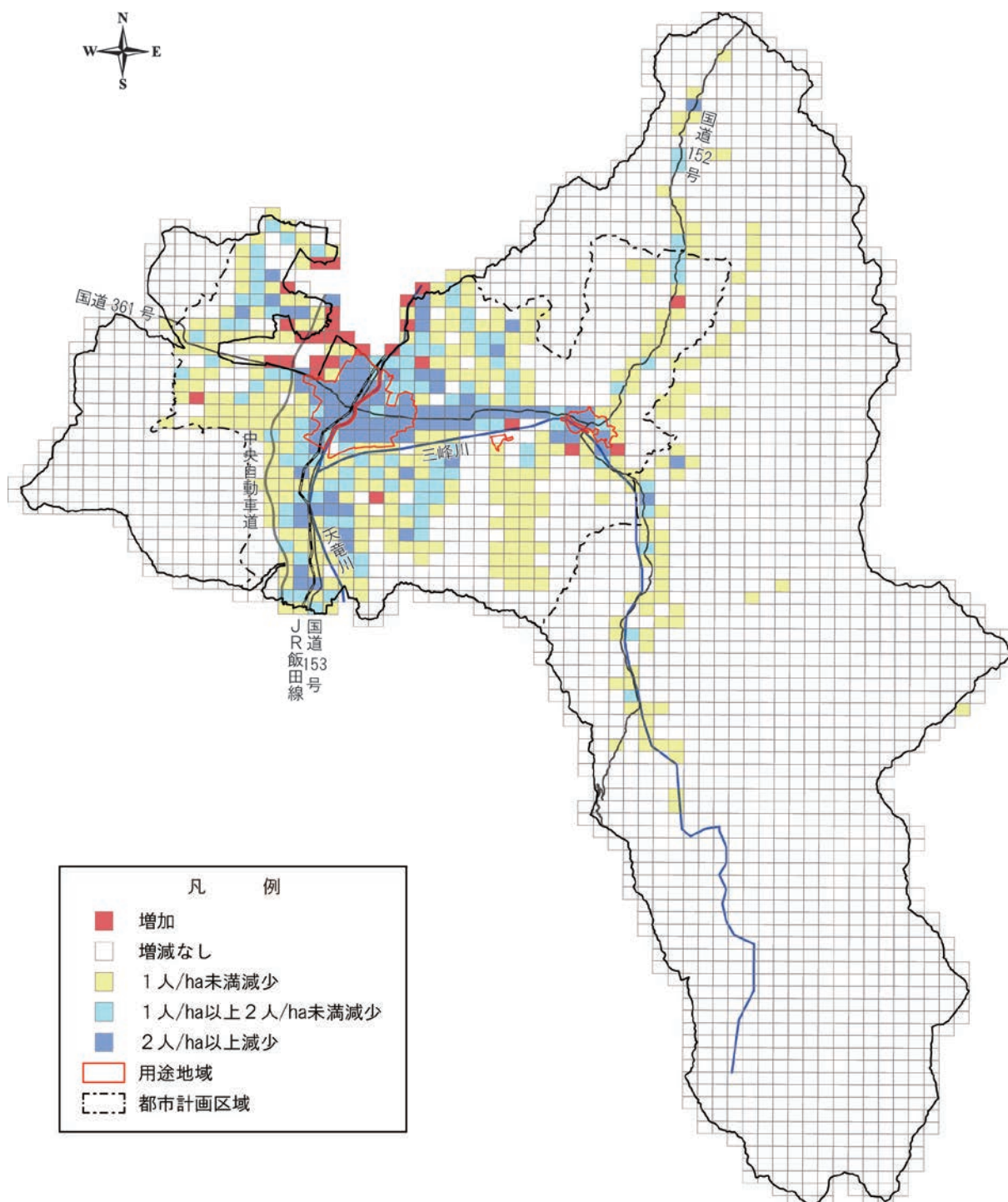
※ 平成27年（2015年）の値は、年齢不詳を按分した人口を基に算出した値

資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

図 年齢3区分別人口構成比の推移と推計

②人口密度

平成27年（2015年）から令和22年（2040年）にかけての500mメッシュ別人口密度増減をみると、一部の地域では人口密度の増加が予測されますが、ほとんどの地域で人口密度の減少が予測されます。特に用途地域*内や天竜川より東側の国道361号沿いで減少が顕著です。



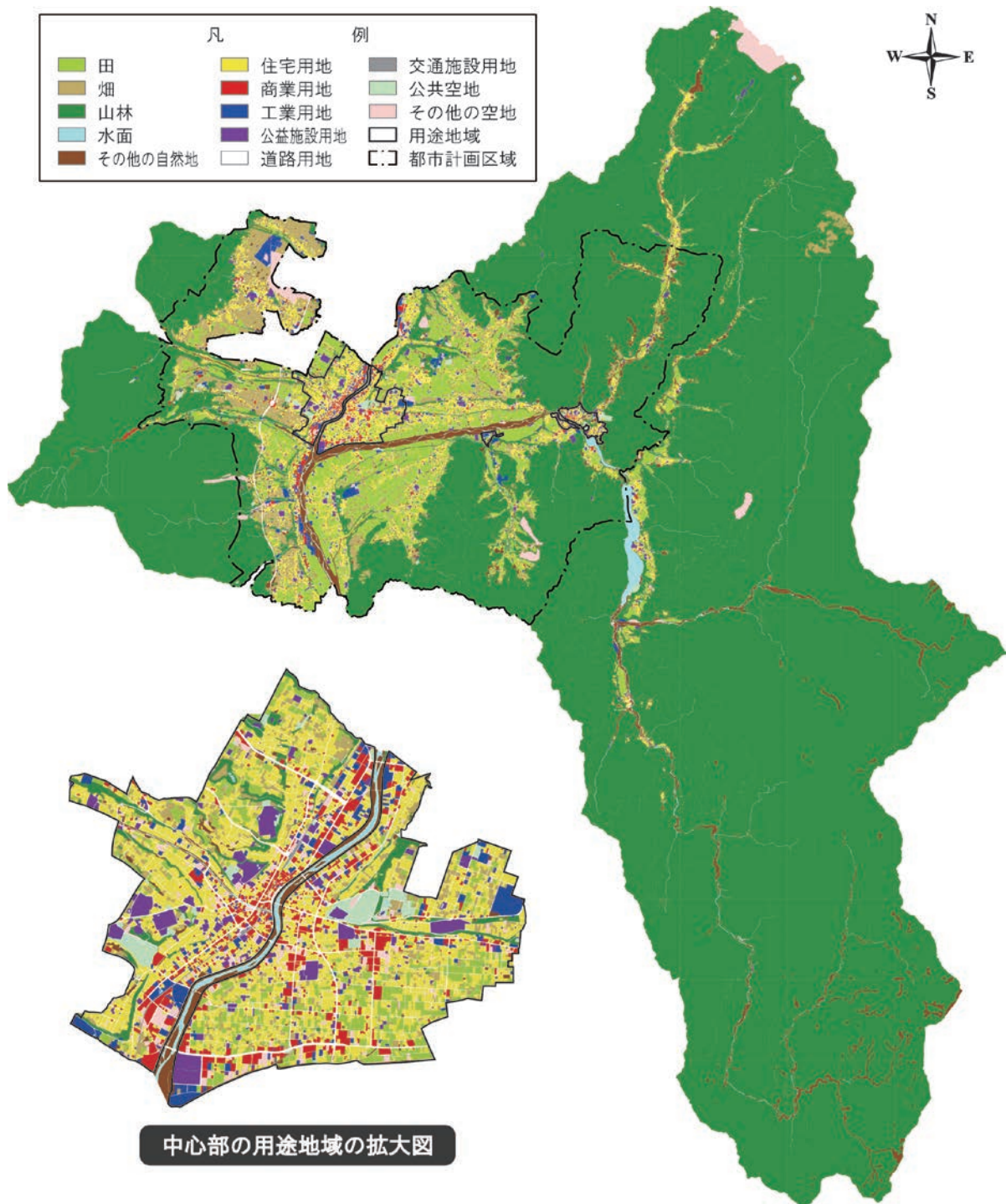
資料：国勢調査、国土数値情報

図 500mメッシュ別人口密度増減（令和22年（2040年）－平成27年（2015年））

4) 土地利用

本市の土地利用は東西が山林地域となっており、天竜川や国道などの主要道路沿いに宅地、その周囲に農地が広がっています。

中心部の用途地域内では、住宅用地などの宅地が大部分を占めていますが、農地が残存しています。また、その他の空地も散見され、伊那市駅や伊那北駅周辺の中心市街地における空洞化が懸念されます。一方、西春近の天竜川沿いでは、用途地域の指定のない区域でまとまった商業用地が見られます

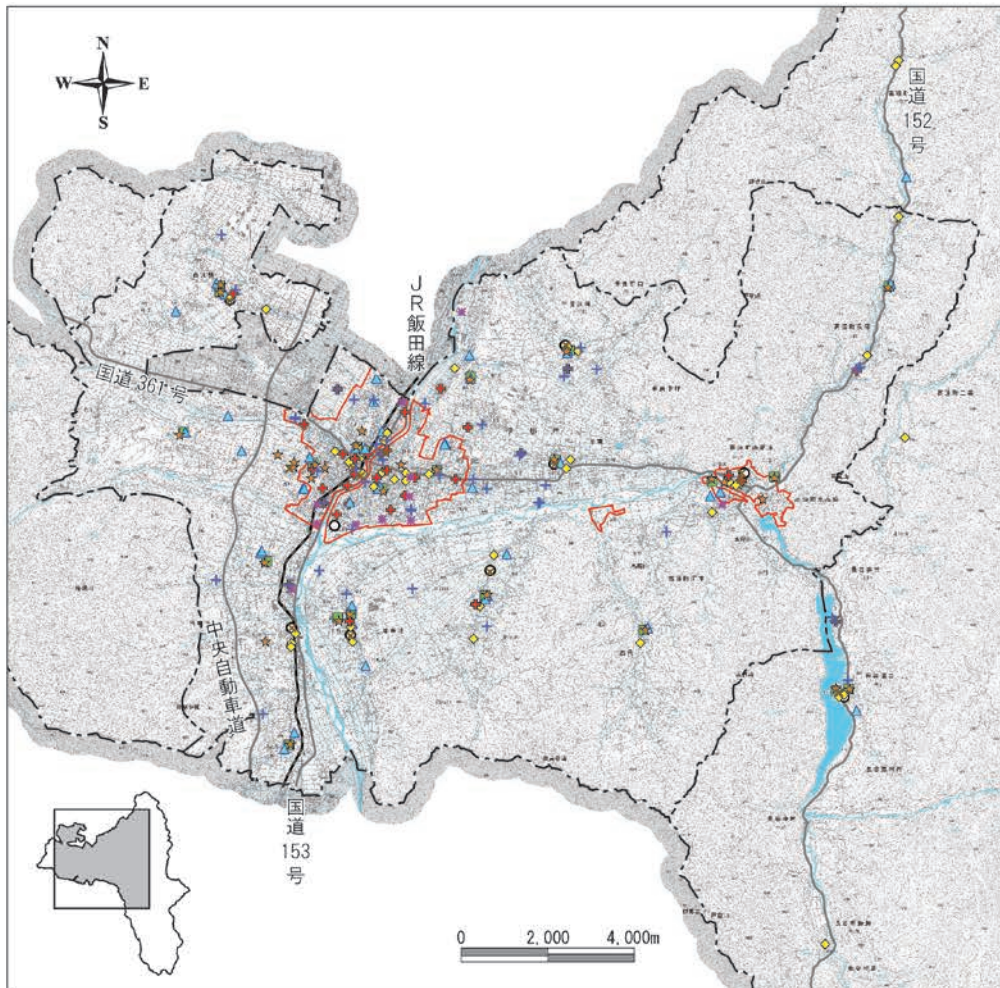


資料：平成 30 年度伊那都市計画基礎調査

図 土地利用現況

5) 施設の分布

施設の分布状況は、商業施設及び医療施設の多くは用途地域内に集積しています。それ以外の施設についても用途地域内にその多くが位置していますが、各総合支所・支所周辺を中心に市内に満遍なく分布しています。



中心部の用途地域周辺の拡大図

凡 例	
○	行政施設
+	介護福祉施設
▲	子育て支援施設
✳	商業施設
✚	医療施設（内科、外科、整形外科）
◇	金融機関
■	教育・文化施設（小・中学校）
×	教育・文化施設（図書館等）
★	防災施設
—	行政界
- - -	都市計画区域
—	用途地域

資料：庁内資料、国土数値情報、大規模小売店舗一覧、伊那市防災マップ、各金融機関公式HP等

図 施設の分布

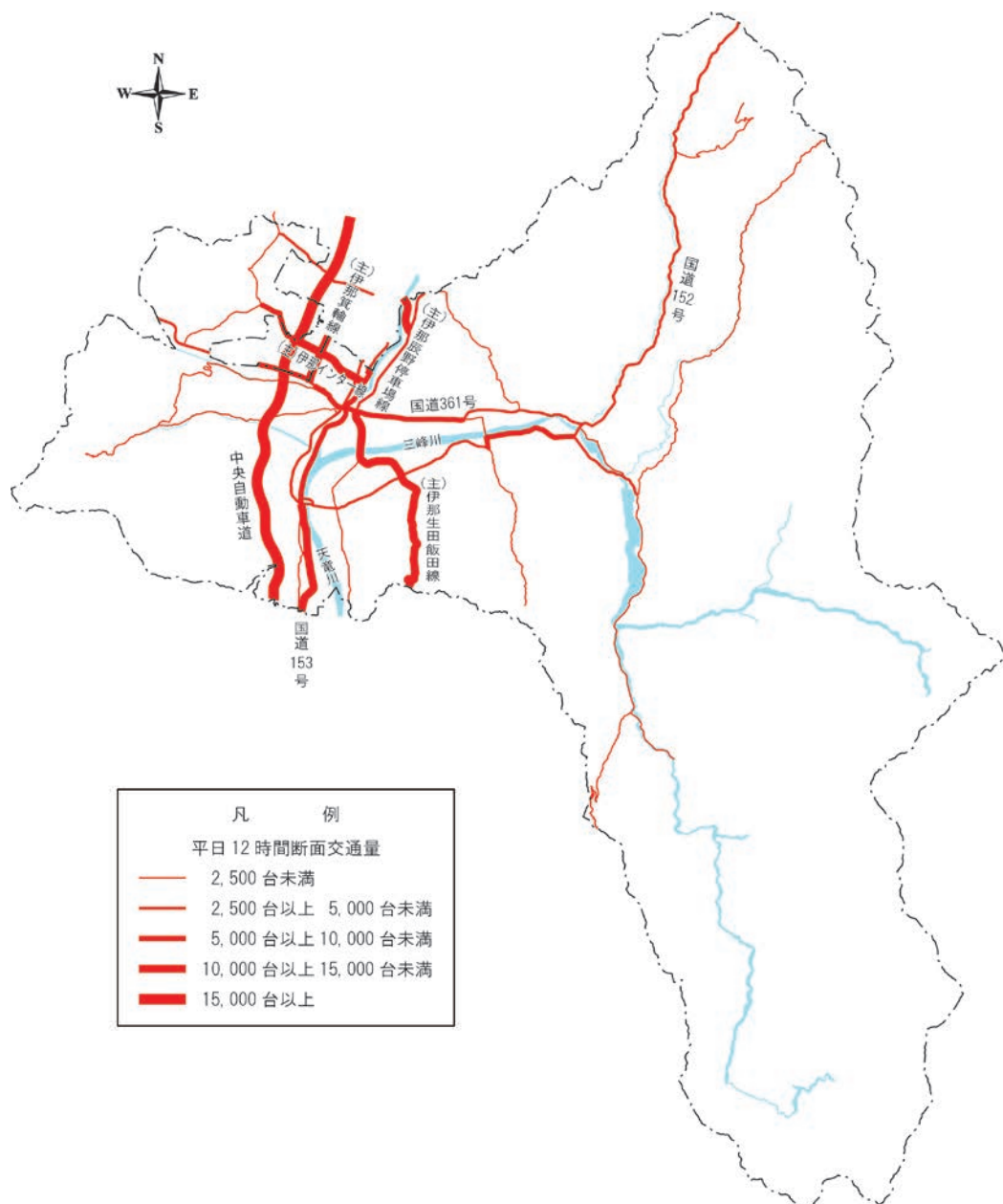
6) 交通体系

①道路網

市内を南北に連絡する道路は中央自動車道、国道 152 号及び 153 号を軸に、主要地方道伊那辰野停車場線、主要地方道伊那生田飯田線等が整備されています。また、東西を連絡する道路は国道 361 号線や主要地方道伊那インター線、一般県道伊那インター西箕輪線、一般県道沢渡高遠線等が主な交通を担っています。

主要道路の断面交通量は、中央自動車道で 1 万 5 千台以上、国道 153 号の一部や主要地方道伊那生田飯田線、主要地方道伊那箕輪線、主要地方道伊那インター線で 1 万台以上 1 万 5 千台未満と、交通量が多くなっています。

また、主要道路の多くは中心市街地を通過しており、天竜川や段丘崖*などの地形的条件、J R 飯田線の踏切などにより、朝夕の交通量が多くなる通勤時間帯に渋滞が発生しています。



資料：平成 27 年度全国道路・街路交通情勢調査一般交通量調査

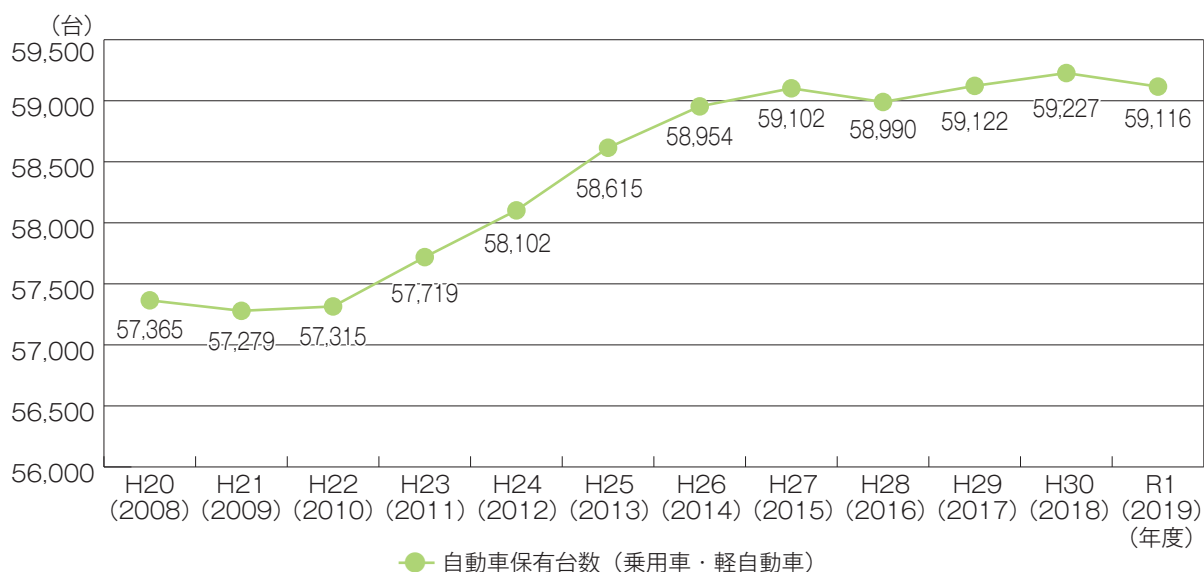
図 主要道路の断面交通量

②自動車保有台数と公共交通

自動車（乗用車・軽自動車）保有台数の推移をみると、平成22年度（2010年度）から平成27年度（2015年度）の間に約2千台増加し、以降は横ばいとなっています。

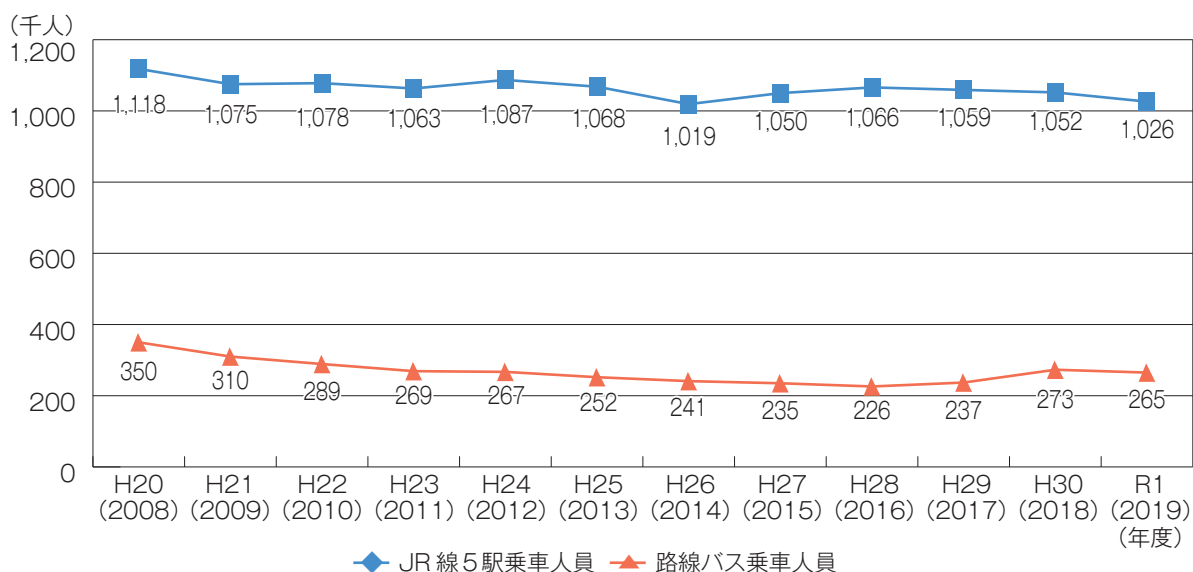
一方、公共交通はJRバスや地区循環バス等の路線バスとJR飯田線があり、鉄道駅は伊那北駅・伊那市駅・下島駅・沢渡駅・赤木駅の5駅があります。路線バス及び鉄道駅の年間乗車人員の総数の推移をみると、ともに微減傾向にあります。

今後は、高齢社会への対応や環境負荷の低減の観点から、自動車利用から公共交通利用への転換が必要です。



資料：運輸要覧

図 自動車保有台数の推移



※ 路線バス乗車人員に西春近線、西箕輪循環タクシー、市内北循環タクシー、伊那本線は含まない。

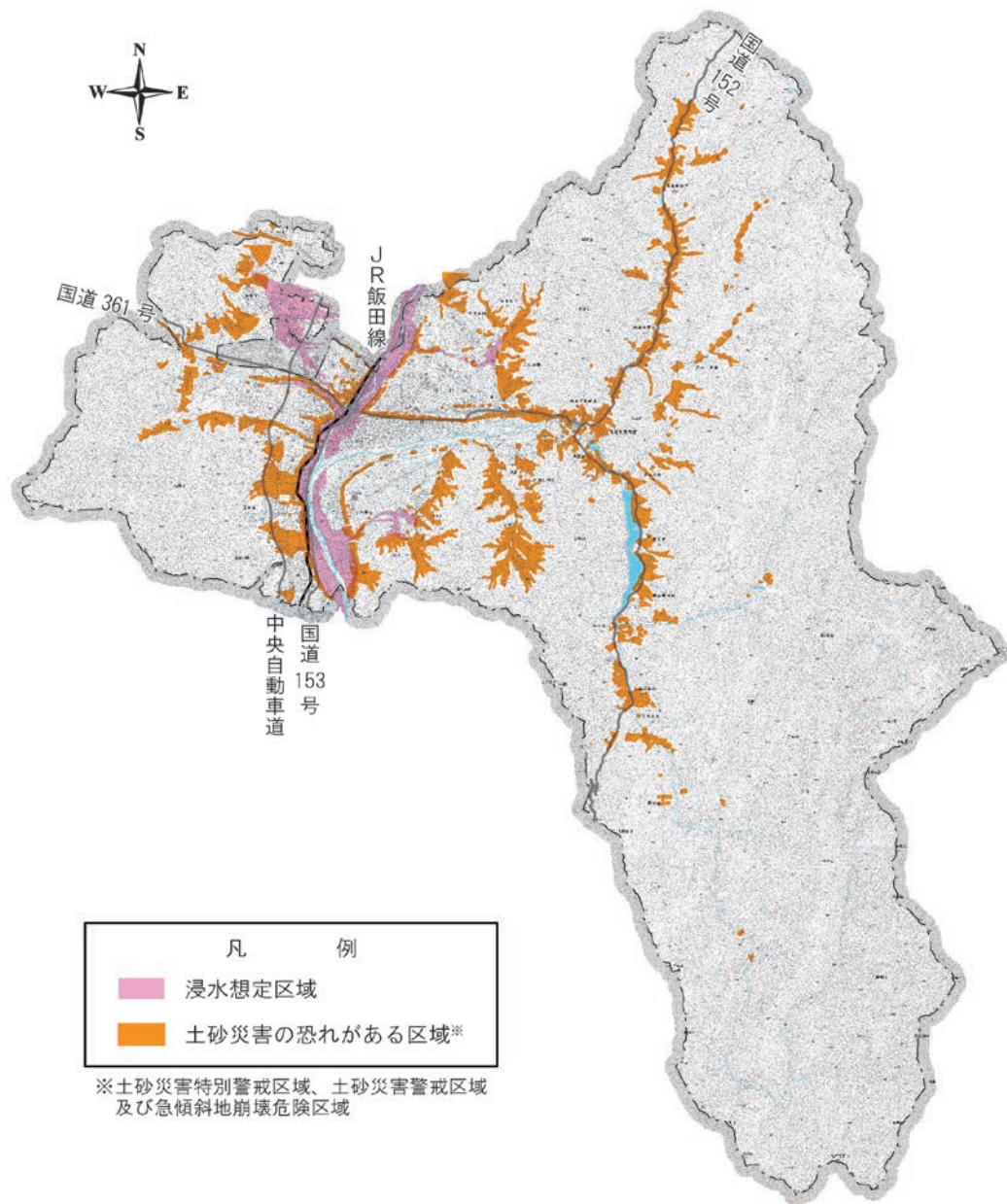
資料：伊那市統計書

図 バス及び鉄道の年間乗車人員の推移

7) 災害

本市は一級河川*の天竜川や三峰川をはじめ多くの河川があり、河岸段丘等による急峻な地形であることから、過去には昭和36年(1961年)梅雨前線豪雨や平成18年(2006年)7月豪雨等により大規模な水害・土砂災害が発生しています。さらに、近年の急変する気象状況等により水害や土砂災害が発生する危険が高まっています。また、市内の河川に架かるいくつかの橋梁が道路網を支えており、落橋等による交通の分断や集落の孤立が危惧されます。

地震については、本市は南海トラフ地震*の「地震防災対策推進地域」に指定され、いつ大規模な揺れが起きてもおかしくない喫緊の状況が続いています。また、本市の東側には糸魚川-静岡構造線断層帯*が走り、竜西地区には南北に伊那谷断層帯*主部が延びていることから、これらの断層を起因とする大地震も懸念されます。



資料：伊那市防災マップ、信州くらしのマップ

図 浸水想定区域と土砂災害の恐れがある区域

2.2 住民意向

1) アンケート調査

①調査の目的

伊那市都市計画マスタープランの改定及び伊那市立地適正化計画の策定に際し、これからの伊那市や住まいについての考え、また、住民のまちづくりにおける満足度や重要度等について把握し、住民の意向を計画の改定や策定に反映することを目的としました。

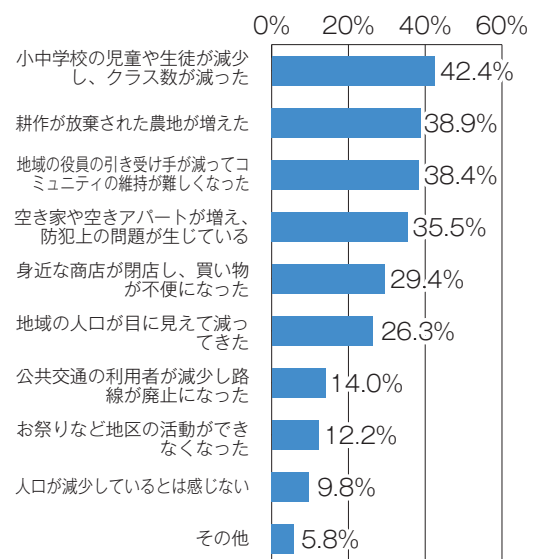
②調査の概要

調査対象	過去のアンケートの年代別回答状況から傾斜配分により抽出した、住民票における満18歳以上の男女2,000人
調査方法	配布方法：郵送 回収方法：郵送または市役所都市計画課窓口へ持参
調査期間	令和元年（2019年）9月19日（木）～10月7日（月）（投函締切日）
回収状況	有効回収数745通（回収率37.3%）

③主な住民意向

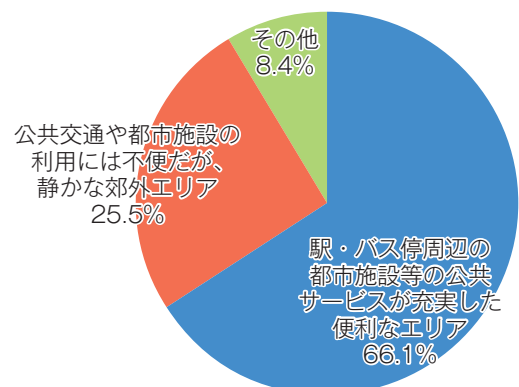
【人口減少社会における身近な状況変化】

人口が減少することで起こっていることは、「小中学校の児童や生徒が減少し、クラス数が減った」が42.4%と最も多くなっています。また、「耕作が放棄された農地が増えた」、「地域の役員の引き受け手が減ってコミュニティの維持が難しくなった」、「空き家や空きアパートが増え、防犯上の問題が生じている」といった項目が35%を超えています。



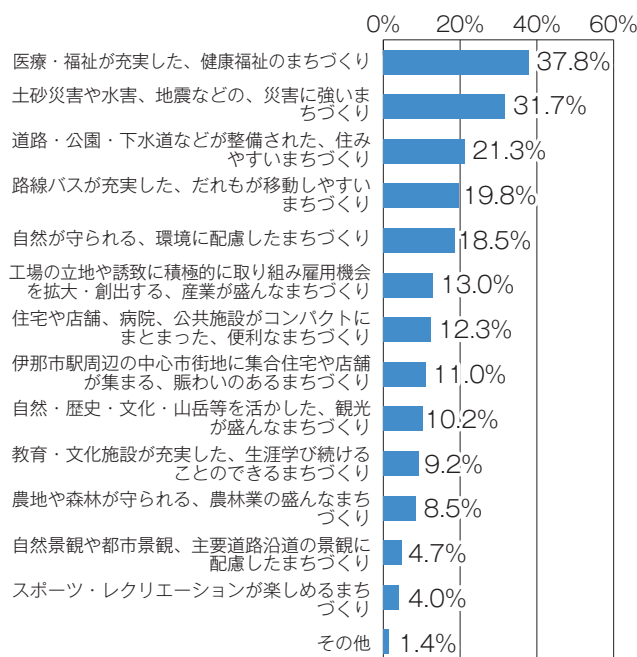
【望ましい将来の居住場所】

多くの市民が住む場所として、どのような環境の場所が望ましいかは、「駅・バス停周辺の都市施設等の公共サービスが充実した便利なエリア」が66.1%と最も多くなっています。



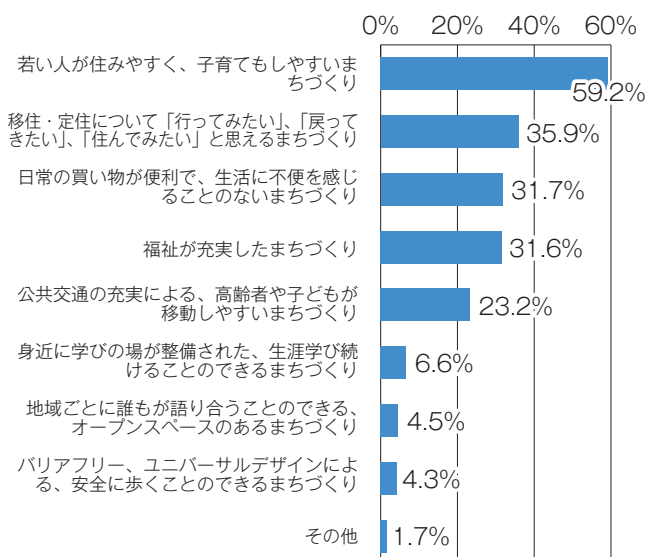
【まちづくりの発展方向】

今後どのような方向に発展することが望ましいかは、「医療・福祉が充実した、健康福祉のまちづくり」が37.8%と最も多く、次に「土砂災害や水害、地震などの、災害に強いまちづくり」が31.7%となっています。



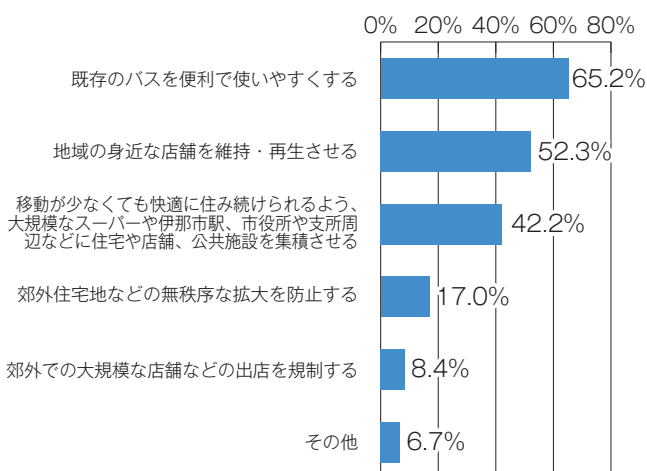
【少子高齢社会における発展方向】

少子高齢社会において重点的に行うことが望ましいまちづくりは、「若い人が住みやすく、子育てもしやすいまちづくり」が59.2%と突出して多くなっています。



【公共交通維持等に必要な施策への考え】

公共交通を維持し、生活に必要な施設を集積させるまちづくりに向け、重点的に行うべきことは、「既存のバスを便利で使いやすくする」が65.2%と最も多く、次に「地域の身近な店舗を維持・再生させる」が52.3%となっています。



2) ワークショップ

①ワークショップの目的

伊那市都市計画マスタープランの改定及び伊那市立地適正化計画の策定に際し、住民意向を反映した実効性の高い計画の策定を目指す観点から、地域住民のまちづくり（都市計画）に対する要望や課題の把握を行うことを目的としました。また、併せて地域住民の皆様には計画の概要を説明し、御理解いただくことも目的としました。

②ワークショップの概要

開催日 開催場所	○令和2年(2020年)8月25日(火) 防災コミュニティセンター ○令和2年(2020年)8月29日(土) 美篤公民館 ○令和2年(2020年)9月1日(火) 東春近公民館 ○令和2年(2020年)9月4日(金) 高遠町総合福祉センターやますそ
参加人数	73名(4日間延べ人数)
プログラム 概要	○伊那市都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の概要説明 ○アンケート調査結果等の説明 ○ワークショップの位置づけの確認 ○グループ会議(都市計画への要望の把握) ○情報共有

ワークショップの様子



2.3 都市の課題

本市における都市の課題を整理すると下記のとおりとなります。

表 都市の課題

項目	課題
人口・高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ○伊那市地方創生総合戦略の確実な実施により、伊那市人口ビジョンに示された計画人口を実現することが課題です。 ○特に中心市街地での人口減少が著しく、街中の空洞化が課題です。 ○高齢社会の到来により、独居、買い物難民、地域コミュニティ*の維持など、新たな問題が生じています。 ○人口の減少に伴って、空き家の増加などがみられ、都市の美観・防犯等様々な課題が生じています。
交通体系	<ul style="list-style-type: none"> ○モータリゼーション*の進展が、都市拡散の大きな要因であり、公共交通への転換が課題です。 ○高齢社会において、自家用自動車に依存した社会構造は、交通事故増大の要因であり、高齢者の安全な移動手段の確保が課題です。 ○市街地での渋滞の解消・移動の円滑化を図る必要があります。 ○環状網構想の早期実現が必要です。
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ○用途地域指定区域内に農地等が残存しており、効率の良い土地利用の実現が課題です。 ○小出島地区など、用途地域の指定のない区域内に多くの商業施設等が立地している箇所があり、そのような地域は特定用途制限地域*等の指定を検討するとともに、新規施設の適正な配置について検討する必要があります。 ○用途地域の指定のない区域への都市の拡散を抑制し、コンパクトで持続可能なまちづくりを進める必要があります。
地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の活力や非常災害時における共助を維持するため、地域コミュニティの維持が課題です。



伊那市市街地の全景航空写真